

山田学区

社協だより

第 61 号

発行
山田学区
社会福祉協議会



さくらの便りが届く季節となりました。山田学区の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申しあげます。

日頃から、山田学区社会福祉協議会の活動には格別のご理解とご協力をいただきまして厚くお礼申し上げます。

二十四年度も多くの皆様のご協力を得まして、数々の活動を終えることができましたことを、心からお礼申し上げます。

さて、今年も恒例のふれあいサロンを開催いたしました。学区全体の方を対象に、年一回の開催になりましたが、なごみの郷で開催しましたところ、七十六名もの多くの方に参加いただきました。

今回は、滋賀県警察本部のお世話になりまして、高齢者の交通安全のため、と

ごあいさつにかえて

会長 岡 顯 朗

もにシユミレーターによりまず自転車の安全運転の実施、また道路の安全な横断しかたを実施していただきました。

自転車をこぎながら、テレビの画面に表示される街中や道路を見て進み、交差点の安全確認やスタート時の後方確認など、真剣な顔をして実施されてきました。みなさん、直後に「難しいな」と感想をもらしておられました。

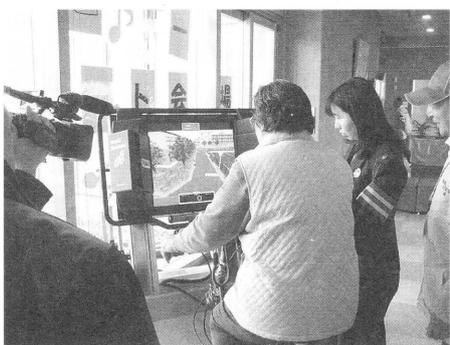
また、道路を横断する歩行者は、大きなテレビに表示される車の切れ目をぬって横断できるタイミングを計ります。自然と小走りで横断するようになってしまいました。

お昼には、古代米の赤い御飯の弁当をいただきました。赤飯と見間違えるような赤い色をしていました。おおくの方が初めての古代

米だったの思いますが、おいしい御飯で、貴重な体験をさせていただきました。なごみの郷のレストランが奮発して提供していただいたそうです。

午後は、草津迷術会のみなさんのすばらしいマジックショーで、時間の経過を忘れてしまいました。

今回のふれあいサロンも、学区の福祉委員のみなさん、警察関係の方々や迷術会のみなさん、また、なごみの郷の皆さんなど多くの方に支えられて成り立っているのだなと感謝しております。おかげさまで、年々参加者が増えてきていると思っております。



福祉講座

一月二四日、福祉講座を開催いたしました。この講座は、今年も公民館講座との共催です。

「福祉活動の重要性・・・人は人、我は我、されど仲良し」として、特定非営利活動法人ディフェンス理事 宮下 千代美氏の講演をいただきました。

以下、講演の概要をお知らせいたします。

◇ ◇ ◇

いちばん下の娘が小学校へ上がったときに、ちょっとボランティアしてみないと誘われたのでした。障害を持った人たちが集まっているんだけど、「いまボランティアが誰もいなくなった、週一回、二時間でもよいから手伝って」言われたのです。で、行ってみました。それが、滋賀自立生活センターです。障害を持つ人は支えをもらうだけの人と



して社会の中でどうして活動していくか、それは私たちが考えたい。だけど、出来ないことは、それを出来る人に手伝ってもらいたい」と明確な説明をいただきました。カルチャーショックでした。

お世話する人の都合に合わせてしまっている。そして、じつと辛抱している。そんな方が多いのではないのでしょうか。ですから、障害者のためにボランティアに行ったりつもりが、自分のためだったと気が付いた訳です。

思っていました。そのために行ったりと思っていました。ところがそこで、「私はこうしたいんです。自分で出来ないことは助けてほしいので、そのように言います。その時は助けてください」と言われました。「自分たちの活動である。障害を持ちながら、市民と

人に人権を認め尊重し合いましよう。障害者やからかわいそう、お年寄りやからかわいそう、そこから出発していくと自分の思い描いている障害者像以外の事をされるお腹が立ちます。私が言うことをよく聞く障害者、わたしがいうことをよく聞く高齢者が、こういう

方には気持ちよくお世話できるけど、相手から「いやこうや」と言われると何を偉そうに障害者のくせに、何を偉そうに年寄りのくせにと思えます。いや、そうではない、「手伝ってほしい」ところだけを手伝えればいいや、そう考えると肩の荷がおります。ボランティアは、何でもかんでも支えようとはしません。そうではなく、その人が転んだ時、手を差し伸べる。それがいい



のです。それが共生でしょう。そのためには、話をしないためですね。語り合わないためですね。障害のある人もない人も、支え合う社会を目指しているのです。それをこの滋賀自立生活センターはうたっているのです。障害者の方にもホームヘルパーを派遣して支援していこうとしていました。障害者はアクティブなので。大阪へ行きます。東京へいきます。それにヘルパーは付き添わなければなりません。私とこの代表はスエーデン、アメリカまで行っています。そこにヘルパーとして付いていくときに、いままでのヘルパーでは務まりません。そこで自分たちを助けてくれるヘルパーはどんなのか、自分たちで育てようとしたのが「ディフェ

ンス」です。

その「ディフェンス」の立ち上げ時に助けてくれた先輩から「宮下さん、一人で抱えたらあかんで、そして自分もつぶれるし、相手も潰すよ」、「つながるのが良い、巻き込むな」でした。それで何とか十年目を迎えられました。

先輩から聞いた歴史の重みと、未来を見ている若い人と繋がる喜び、安心を、その彼らが、いまの仕事についてよかったと思える喜びを、私たちがどう伝えるかが大切です。こんな世の中あかんで、今の草津市ではあかんで、といったら若い人たちもあかんでと思ってしまうでしょう。

今度の日曜日はたいまつ祭りですね。これにも出席させていただきますが、このイベントのプロセスが大切なのです。その繋がりが大切なのです。それを横から見ていますと、いいな一と感じます。

とにかく、私も後ろを振り返ることはしません。失

敗も含めすべて吉としています。

朝起きたら鏡に向かって、自分にはよさうのあいさつしています。そして元気なところを確認し、自分を励ます。自分が幸せでなければ、人を幸せに出来ないことを知りました。

だれだれちゃんとか○○さんとか、親しく呼び合える仲間とか、子どもを見たら、「気を付けてお帰り」と声をかけられるそんな雰囲気です。自分も素晴らしいのです。自分かもあるでしょう。自分のためではなく、学区のために、こんなのが、住む人たちが紡ぎ出す、山田のオリジナルのあたたかい目に見えない空気です。それが山田だけでなく、草津じゅうに広がる。そして、滋賀県に、関西に、日本中、世界に広がるといいですね。



人権研修

平成二四年十一月三十日、県外人権研修を実施いたしました。今年には京都市ツラッテイ千本と立命館大学国際平和ミュージアムの見学を行いました。

そして、地域の歴史や現状や、平和について学び、すべての人が幸せに暮らせる人権を大切にしたい地域福祉活動やまちづくりなどのように取り組んでいくべきか考える機会とするために実施しているものです。

ツラッテイとは、「一緒に連れだって」との意味、京ことばだそうです。ここでは、地域で取り組まれてきた部落史研究活動の成果、まちづくり運動の歩み、北区・上京区の学校や地域で取り組まれている「人と人、人とまちをつなぐ」活動を展示で紹介しています。

このなかに、『長屋のオッサンが、朝、出かける子

どもたちに「行っておいで」、帰ってくる子どもたちに「お帰り」と声をかけていました」との紹介がありました。

時には、子どもにとってはうるさかったかも？ でもこんな繋がりが山田学区で再生できると素晴らしいですね。



立命館大学国際平和ミュージアムは、今回のメニューの中にもリーダーが多くなるようでした。展示されている事項が非常に多く、ボランティアのガイドさんが付いていたのですが、見学時間が短すぎたようでした。

賛助会員紹介

今年も草津市社会福祉協議会賛助会員への募集をさせていただきます。山田学区では30社(名)の皆様からご協力をいただきました。この会費は草津市社会福祉協議会の活動に有効に活用させていただきます。

ここに、山田学区の賛助会員のみなさまをご紹介します(敬称略・順不同)

- ・(株)アヤシロ・(株)ナカイトクノ・(有)横江製作所・横江板金塗装(株)・相撲ちゃんこ大岳・(株)光真製作所・(株)中鳴歯車工業所・藤田工務店
- ・(株)福盛教材・浜口自転車店・オートカム・中野製菓(株)・園田瓦店・(株)久泉エンジニアリング・(有)馬場自動車・(有)馬場工務店・堀井歯科医院・(株)テクノオーミ
- ・膳所木材工業(株)・山一産業(株)・久保水道・西本電気工事(株)・久保産業(株)・(有)馬場建設・(有)久保電気・(有)井自動車工業(株)・佐山水道工業(株)・すずか亭・天聖真美会・木川営農組合

安心のボタン

救急医療情報キット「安心のボタン」は「もしも・」のときの安全・安心をまもります。日々の暮らしの中で、急に倒れたりした場合には、駆け付けた救急隊の方や医療関係者に参



考になるよう、救急医療情報紙に、本人の氏名はもちろん、緊急連絡先、かかりつけ医、常用薬の情報などを記載し、ケースに入れ、冷蔵庫に保管しておくものです。

このことによって、万一の時の対応が飛躍的にスピードアップします。この方法は、個人情報保



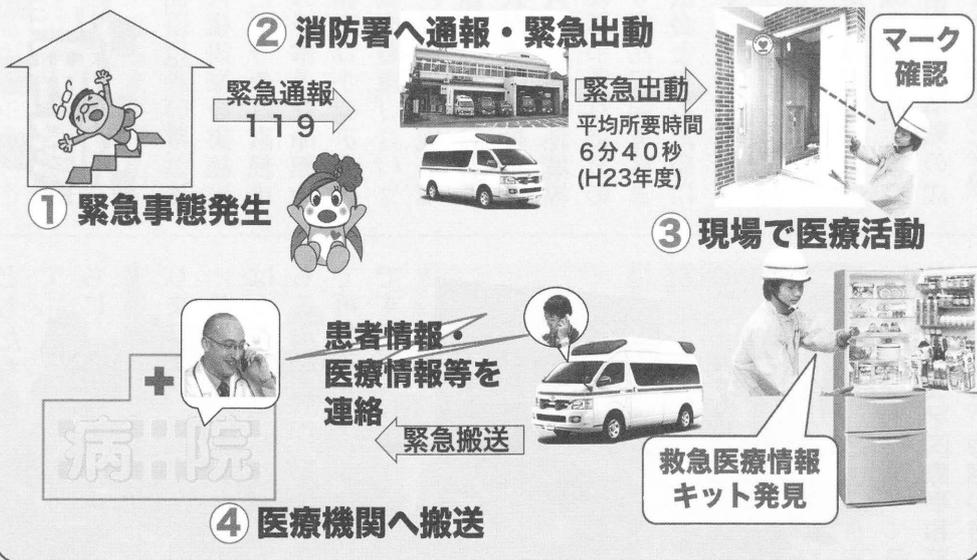
護の観点からは、個人情報を集める必要もなく、万一開示する場合も、当該該当者のみが対象となり、他の個人には何の影響もないところが優れています。

今年は一人暮らしの高齢者を中心に「安心のボタン」を配布します。そして、来年度以降も、順次配布先を拡大してまいります。

なお、この事業は、民生委員児童委員協議会と社会福祉協議会が、自治連合会の協力を得て、まち協事業として実施してまいります。

なお、現在、市で進められています。災害時要援護者登録制度ですが、個人情報保護の観点から、民生委員が個別訪問し、登録業務が行われています。このためか、市民になんとなく

救急医療情報の活用イメージ



なじみがなく、システムに対する理解度が低く、地域での連携がスムーズにいかないと感じています。ですから、支援を出来る方は「支援者になりますよ」と先に手を挙げてもらおうと

ともに、「助けてほしい」と手を挙げることはなにも「恥ずかしいこと」ではありませぬので、お互いに積極的に手を上げていきまして、地域での連携強化を図りたいものです。

編集後記

今年の冬も寒かったそうですね。これで三年連続と

一人暮らしの高齢者と一緒のバス旅行で、休暇村近江八幡へ行きました。以前の国民休暇村です。平成二十四年十二月十日でした。山田を出発するときは、それほどでもなかったのですが、近江八幡へ着く直前からは、雪になりました、どんよりした空模様です。

暖かい部屋で、おいしい料理を食べているときは、忘れていたのですが、窓の外は、雪がどんどん降ってきます。みんな、なんとなく不安になってきました。予定より早く帰ってきました。

でも、山田は、雪ではなかってほっとしました。今回は、地域サロンの紹介ができませんでした。次回に持ち越したいと思えます。